

## 共和政ローマの講義

今回は4月当初に課題とした確認テストの範囲を説明しようと思います。まず、復習を含めて話しますので、思い出しながら聞いてください。古代世界を学習するとき「文明は中心から周辺へ」という言葉覚えておくと役に立ちます。この言葉の意味するところは「栄えている場所はかつての中心からその周辺に移動する」ということです。違うたとえ方で言うと「トップ（リーダー）を追い抜く人はトップの近くにいる人だ」ということです。理由はトップの勇姿を見て人一倍悔しい思いをし、なおかつ最もその技術を盗みやすい位置にいるからです。ティグリス・ユーフラテス川の下流に住むシュメール人から始まったメソポタミア文明は、やがてその文明圏である肥沃な三日月地帯の北に位置する小アジアから起こったヒッタイトに支配されます。その後、肥沃な三日月地帯、小アジア、さらにはエジプトを含めたオリエント世界を統一したのは小アジアの隣のイランから起こったアケメネス朝でした。さらにこのアケメネス朝を倒したのが、アケメネス朝に隣接するギリシアをまとめたアレクサンドロス大王です。地図を思い浮かべながらイメージできましたか？世界史は歴史地図を覚えないと話が入ってきませんので、常にタペストリーを見る癖をつけて欲しいです。アレクサンドロス大王の征服によりオリエント世界はギリシア人がおさえ、当然のギリシアのやり方が広がります。この時代をヘレニズム時代と言います。ヘレニズムとは「ギリシアの影響を受けた」という意味です。

次に3年の範囲の話です。このヘレニズム時代を終わらせるのが、ギリシアの周辺にあったローマです。アレクサンドロス大王が活躍している頃、ローマはまだ小国にすぎませんでした。ローマはもともとラテン人のつくった都市国家から出発しました。当初はギリシア文化をラテン人より早く吸収して強くなったエトルリア人に支配されていましたが、やがて独立しました。独立後の政治体制は共和政です。共和政とは国家の方針を決定する人が複数いる体制のことです。ローマの最高官職は任期1年2名の**コンスル（執政官）**でした。しかし、本当の実権はコンスルにはありませんでした。コンスルは任期が終わると**元老院**という組織に入りました。元老院とは高校の部活動のイメージでいうと歴代の監督や主将で構成するOB会です。現役の主将にあたるコンスルが対抗できるはずがありません。ところでこの元老院ですが、全員貴族でした。コンスルを初めとした国家の重要職になれたのが貴族だったので当然の結果です。そして元老院の決定は常に貴族に有利なものばかりでした。これも当たり前の現象です。この状況に平民の不満が高まり、やがて貴族も平民の政治参加への要求を無視できなくなりました。なぜだかわかりますか？理由はアテネの民主化がすすんだ要因を思い出すことです。アテネの無産市民はなぜ認められましたか？ローマはギリシア文化を模倣していますから、戦争のスタイルも真似ています。重装歩兵によるファランクス戦法です。この戦法は集団戦ですので、人数とチームワークが大事です。ローマでは重装歩兵になる平民の割合が増えていました。ローマは平民の協力なしでは戦争に勝てませんでした。

次にローマの民主化の過程を話します。アテネの民主化と覚える時に混同してしまいそうですが内容は違います。アテネの民主化、つまり政治的平等とは民会に参加できるということです。ある意味単純ですが、ローマはそれに比べれば少し複雑です。第一段階は**護民官**の設置です。法律はすべて元老院がつくっていましたが、先ほども話しましたが、貴族に有利なものが多くなる傾向にあります。護民官は平民出身者となり、平民にあまりにも不利益な法を拒否できるようになりました。次が**十二表法**です。これはアテネでのドラコンの立法と同じで、法を成文化して平民もわかるように公開しました。3つめは**リキニウス・セクステイウス法**です。この法によりコンスルの一人は平民になることになり、官職が平民に開放さ

れました。最後が**ホルテンシウス法**です。これは平民で構成される平民会の決議が国法になることを定めたものです。つまり貴族は元老院、平民は平民会を通してローマという国家に影響を与えられるようになり、これによって貴族と平民が政治的平等になったと考えました。これがローマの民主化です。あと国家の非常時だけはこういう政治システムを無視して**独裁官（ディクタトル）**が任命され、独断で政治を行いました。

民主化の一方でローマは周辺民族との戦争に明け暮れ、次々と征服しました。ローマをチームと考えた時、チーム内での対立の克服、つまり民主化することで強くなったと考えればよいと思います。征服した都市をローマは**分割統治**という方法で治めました。これはそれぞれの都市の権利や義務を変えて、諸都市の団結と反抗を防ぐ方法です。例えばある都市には軍役義務があり、その軍役に不満を言っても軍役義務のない他の都市はその不満には同情しません。つまりローマに対する特定の要因への不満を持った集団は、一定レベルを超えて大きくはならないということになります。また分割統治を含めローマの支配は総じて敗者に寛容でした。負かした相手に復讐するのは普通です。復讐すれば敗者は勝者に恨みを持ちます。寛容にすれば敗者は感謝します。さらにローマは敗者の一部（指導的人物など）に**ローマ市民権を与え、仲間に加えました**。厳格な規定を作って決して市民権を拡大しなかったアテネとは対照的です。希望があれば人は反乱するより、従い評価されようとします。アテネが崩壊し、ローマが大国に発展した理由がここにあります。

紀元前 3 世紀になるとイタリア半島を統一したローマにとって大きな試練が訪れます。**カルタゴ**との**ポエニ戦争**です。カルタゴはフェニキア人が建設した植民市が発展した海上貿易国家です。海上貿易に乗り出したローマにとっては邪魔でした。この戦争ではナポレオンも尊敬する**カルタゴの名将ハンニバル**が、誰もが考えつかないアルプス山脈越えに成功してイタリア半島に乗り込み大暴れしますが、ローマは耐えて最終的には逆転勝利を収めました。ローマはこの勝利で西地中海の覇者となりますが、統治方法は大きく変容します。カルタゴから奪った領土では割統治をやめ、**属州**としました。最初の属州はシチリア島です。属州とは過酷な搾取を受ける土地です。属州民から奪い取った富はもちろん国家に納入されますが、属州の総督となった元老院議員や**現地での徴税を担当した騎士階級**は国税以上に属州民から富をまきあげて自分のポケットにいれました。驚異的な億万長者になります。一方、一般の兵士をやっていた中小農民は家に帰ると待っていたのは荒れ果てた畑でした。戦争で大けがをした者もいたはずですが、生活に困って彼らは土地を担保に借金します。金を貸したのは誰でしょうか？元老院議員や騎士階級です。このあとの流れが想像できますか？お金は返せたのでしょうか？ほとんどの人が返済できず、土地を失いました。元老院議員や騎士階級はイタリア半島で大土地所有者となり、その土地を購入した奴隷に耕させました。これを**ラティフンディア**と呼びます。ローマ市民は一握りの大金持ちと多数の無産市民に分解し、恐ろしい貧富の差がある国家になってしまいました。「国家のために命がけで戦った結果が破産」だとしたらあなたはどうしますか？ローマの金持ち達もそのくらいは想像していました。「一律 10 万円給付」ではなく、「**パンとサーカス**」を用意しました。「ただ飯と娯楽」を与えて怒りの矛先が自分たちにくることをさけたのでした。ちなみに娯楽とは公衆浴場（スーパー銭湯？）、戦車レース（落馬しまくりの競馬？）、剣闘士（殺し合い用の奴隷）の試合などです。

※休校が長引いていますのでこの範囲の講義はできません。大事だと思うところには下線を引いて、しっかり理解してください。全部覚える必要は無いです。丸暗記ではなく、ストーリーを持つことが大事です。

世界史の授業はプリント授業ではなく、ノートを使用します。以下は共和政ローマの板書計画です。「共和政ローマの講義」を読みながら、板書計画を自分のノートに書き写しましょう。その際、空所には赤文字など色を変えて用語を記入しよう。

(都市国家ローマ)

①ローマの建設

( ) 人がティベル河畔に建設

↓

( ) 人の王を追放して独立

政治機構： { ( ) (=執政官)、( ) (=独裁官)  
( ) …重要官職の経験者などで構成

※貴族が独占

②民主化への要求 ← 平民が ( ) として活躍

(ア) ( ) の設置  
元老院の決定に対して拒否権

(イ) ( )  
ローマ初の成文法

(ウ) ( ) (BC367)  
コンスルの一人は平民

(エ) ( ) (BC287)  
平民会の決議が国法

(ローマの地中海支配)

①イタリア半島の統一 (BC272)

( ) … 征服都市と個別に条約締結  
政治的権利や従軍義務に差をつける

目的 = ( 諸都市の ) を防ぐ)

※この他、有力者には ( ) を付与

② ポエニ戦争 (BC264 ~ BC146) VS ( )

第一次 : ( ) 島獲得 ← ローマ最初の属州

第二次 : ( )、カンネーの戦いでローマ軍に勝利

↓

ザマの戦いでローマのスキピオに敗北

第三次 : カルタゴ滅亡

タペストリーの P 6 を見てカルタゴの領土 (オレンジ色の場所) を示す地図を書く。

③ ローマ市民の分解

元老院議員…属州総督  
( ) 階級…属州での徴税請負 → ( ) の経営

激しい貧富の差

中小農民…従軍による疲弊 → 無産市民化

※有力者は無産市民に「 」を与える